

2013年6月15日～16日 静岡県富士宮市

地図作製の熟練者達が集い、情報交換を行う初の試み「マッパー合宿」が開催された。活発な議論と雑談が絶えず巻き起こる刺激的な2日間。その模様をレポートする。

## きっかけは facebook

今回の企画のきっかけとなったのは、マッパー間の facebook 上での交流であった。ほとんど話をしたことがない方々とも、「マッピング」という共通の話題でさまざまな議論を交わすことができ、それが非常に刺激的であった。そんな中で、「一度きちんと情報共有の場が欲しいね」という話が上がリ、私が幹事となって本合宿を企画するに至ったのである。

## 1日目:フィールド調査

参加者数は計15名。マニアックな企画の割にはかなり集まった方であろう。1日目の内容は現地調査。全員が同一範囲を調査・作図し、それを比較。その後宿である「西の家」に移り、中村弘太郎氏を中心として現地調査のノウハウ共有を行った。現地調査の原図には航空レーザ測量由来の正確な等高線が引かれていたが、それでも各マッパーの作った地図はとてつもなく個性が際立った。特に植生の基準でばらつきが大きかった。

現地調査の議論のあとは懇親会として飲み会を開いたが、その最中も OCAD の技や GPS や Google マップを用いる工夫などを披露しあった。

## 2日目:基盤地図情報の活用

2日目はひたすら講義三昧である。まず午前には中村憲氏から基盤地図情報の活用について、西村から航空レーザ測量についての講義があった。

今まで都市計画図等の行政図は役所まで買いに行き、それを切り刻んで一つ一つスキャナにかけるという使い方が一般的であったが、今や情報量は限られるものの国土院のサイトからインターネット経由にて取得できるようになった。そしてその中には超高精度な等高線を生成できる航空レーザ測量のデータも含まれている。それらの貴重なデータをいかにして OCAD に連携

させ、利用するかがテーマとなった。講義だけでは理解が難しい部分もあったが、実際にパソコンを使って操作をすることでより理解が進んだ参加者も多かった。

しかしながら、特に航空レーザ測量を正しく有効に活用するためには技術的なハードルが高いため、NishiPRO へ外注するという案も意見として挙げられた。今後価格面の検討を加えたいうえでサービス化することを考えたい。

## 2日目:GPSの活用

山川克則氏からは GPS についての講義をしていただいた。オリエンテーリング界における GPS は、キノコ型のアンテナを付けた重いザックを担いで・・・というのを想像される方が多いであろう。しかし今や精度の面ではやや劣るものの、圧倒的な感度と軽量性により調査に使えるハンディ型の GPS が登場し、山川氏がオリエン界の代理店的な役割をさせていただいているおかげで一気に普及が進んでいる。機種は大きく ashtech 社製の MobileMapper シリーズと Trimble 社製の Juno シリーズとに二分され、それぞれの使い勝手について議論が交わされた。

## 2日目:地元渉外の方法

0-map を作る上で必要なのは技術だけではなく、地元との良好な関係も不可欠である。特にマッパーは運営者の中で一番多くトレインに入る存在であり、その重要性は大きい。実際、近年不幸な運命をたどった大会・トレインが続出しており、地元との関係構築に関する情報共有は必要と考え、メニューに入れた次第である。

結果、環境保護団体や公園の管理事情の他、名札を付けて調査をする等様々な工夫を知ることができた。

## 2日目:ISOMの改定案

最後のメニューは IOF のマップミッションや OCAD 開発者とも交流のある尾上俊雄氏による、海外動向の講義である。特に十数年ぶりに改訂される ISOM の案に関しては注目度が高くさまざまな意見が出た。Bハッチ、Cハッチの緑線の間隔が半分程度に狭くなる、建物が黒縁の灰色ベタになるなど、インパクトの大きな改訂となりそうであるが、より見やすい地図となると考えられる。

(NishiPRO 西村徳真)



作図中の参加者たち。よく見るとそうそうたるメンバーだ